



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2017年8月13(日) 9:30~12:00(曇)

参加者 一般:2名(うち子ども0名)

指導員:6名

テーマ 「林の中を観察しよう」

暑い時期なので陽射しを遮るものがない河原を避けて、公園の林で虫などを観察して回りました。

クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシの鳴き声が響いていますが、身近で姿を見られたのはアブラゼミだけでした。木に止まって口吻を幹に突き刺している様子を見て、固い樹皮によく刺せるものだと感心していました。

林の中でゼミの抜け殻を探してみました。見つかったのはアブラゼミとニイニイゼミのものでした。アブラゼミは地上2m程の高さまで、表面に泥の付いたニイニイゼミの抜け殻は60cm程の位置に付いていました。抜け殻の触角や頭部の毛などをルーペで観察し、腹部の先端の産卵管になる器官の有無で幼虫の雌雄を見分けることを学びました。

途中、木の幹に狩人蜂のスズバチの巣があり、まだ乾いていない泥の部分がありました。しばらく見ていると、泥をくわえた親蜂が飛んで来ましたが、周りにカメラを構えた人が大勢いるので警戒してなかなか巣に下りません。人が少し巣から離れると、やっと巣に下りて泥を塗っていました。

そのほか、林の中ではヨコヅナサシガメの幼虫、ヒメオビオオキノコムシの集団などが観察できました。

林の中は外より気温が低いと言われますので、実際に温度計で気温を測って確かめました。林の外は30~32℃で、林の中は28~30℃で、2度程の差がありましたが、感覚的にはもっと涼しいように感じられました。(報告:齋竹)



(口吻を幹に刺し、樹液を吸っているアブラゼミ)



(巣作り中のスズバチ)



(幹に集まったヒメオビオオキノコムシ)



(観察会のようす)

<その他観察できたもの>

虫: バッタモドキ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、カラスアゲハ、キタキチョウ、サトキマダラヒカゲ、ゴマダラチョウ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、セスジスズメ(幼虫)、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、ノシメトンボ、クロイトトンボ、モノサシトンボ、ナツアカネ、ナガゴマフカミキリ、ヒゲジロハサミムジ、タイワンタケクマバチ、ベッコウハゴロモ、チャタテムシ sp

鳥: モズ、ツバメ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、スズメ、シジュウカラ(声)

その他: アカミミガメ、アマガエル、カグヤヒメグモ、コガタコガネグモ

花: アメリカネナシカズラ、アレチハナガサ、シロツメクサ、フタナ、ツユクサ、クズ、ヤブミョウガ